



頭も心もハンガンマル (韓国語) ～初めての翻訳とワークショップ発表～

札幌市もみじふれあい児童会館 指導員 榊原 由美

2010年8月に実施した「韓国健全育成活動事業特派員」事業にご参加いただいた児童館関係者のレポートを、今号も掲載いたします。今回は、現地で韓国語による発表にチャレンジした榊原さんからのレポートをお届けします。

ひょんなことがきっかけで、私はこのプログラムに「韓国健全育成活動事業特派員」として関わることになりました。「え、特派員……？」と、最初は「なんだか重要な役割みたいだけど、本当に私に務まるのか？」と不安でしたが、派遣が決まってからは「私にできることは精一杯頑張ろう」と決意をし、出発までの短い時間の中で準備に追われたのを、まるで昨日のこのように思い出します。

韓国とわたし

大韓民国という国は、高校2年の修学旅行で初めて訪れてからというもの、何かと身近に感じる存在でした。

私の韓国に対する第一印象は、「人がとっても優しい」「お世辞は言わず、正直で素直」「車の運転が荒く、隙間があれば入り込む(2車線に3台並んで走るのは当たり前)ため、街中クラクションが鳴りっぱなし」という、日本との違いを感じるものでした。そのためか、当初は韓国に対し「恐怖」さえも覚えていたと思います。

あれから数年経った今も印象はさほど変わりませんが、韓国人の友達ができたことで言葉の交流ができるようになり、「所変われば人も常識も変わる」という事実を理解し、その違いさえも楽しめるようになったと思います。

はじめての翻訳作業

韓国出発の11日前。館行事の炊事遠足を終えて疲れている中、「ふりーたいむ」PRのDVD制作が始まりました。「ふりーたいむ」とは、札幌市内の児童会館で実施している、中高生の居場所づくり事業の愛称です。私に課せられたのは、韓国向けDVDの翻訳作業でした。といっても韓国語への翻訳作業は初めてのことで、日常会話程度しか話したことのない私にとって、まさに自分との戦いでした。

翻訳と声入れが進むにつれて楽しい気分になり、字幕の韓国語訳も張り切って引き受けることになりました。編集担当者の協力もあり、なんとか無事に完成したDVDを荷物に詰め込み、ソウルに向けて私たち札幌チームが出発したのは、その数日後のことです。

韓国語で発表?!



▲ブースでは日本の遊びも紹介

私たちが制作したDVDは2日間にわたり運営したブースで繰り返し放映され、日本の児童館の活動事例と、韓国の地域児童センター「1318 Happy Zone」の活動を発表しあうワークショップでも取り入れ

られました。

ワークショップでの札幌の発表は「ふりーたいむ」について。前日のミーティングで「明日のワークショップ、中高生の発表は韓国語でいこう」と指令を受けていた私は、朝から妙な緊張感を覚えました。今思えば数分のはずがステージに立っている間はとて長く感じ、ワークショップに参加している全員の目が自分に向き、私のまだまだ未熟な韓国語が全員の



▲韓国語で発表

耳に響いているかと思うと、顔から火が出る思いでした。しかし、私の一語一句を聞き逃すまいと熱心に頷き、うまく言葉が思いつかないときには合の手を入れてくださる韓国の方々には助けられ、なんとか無事に発表を終えることができました。日本人の参加者が、まったく内容をつかめなかったことを除いては……。

“通訳が入らない分、時間の節約になる”という、今考えれば笑ってしまうような理由で挑戦させていただいた韓国語でのワークショップ発表。地域児童センターなどで働く韓国の方々には身近で興味深い分野だったのか、終了後にたくさんの質問を受けました。また、「日本の中高生の活動を見てみたい」という声を聞くこともできました。

日本の児童館と韓国の地域児童センター「1318 Happy Zone」。今後どんな交流が行われるかはまだ分かりませんが、日韓の中高生事情などについてさらに情報の共有を図って、お互いの良い部分を認め合い、刺激し合っていけるといいな、と未知の可能性を感じた3泊4日間でした。



▲韓国の国会議員さんとも意気投合

※派遣プログラムについては、2010秋号をご覧ください。平成23年度の交流事業は現在調整中です。